

言葉が借用された時代と、文中の修辞用法との関係について

泉杏爾 23B50081

東京工業大学環境社会理工学院

1. はじめに

英語は時代によって様々な言語を借用してきた。しかし、例えば日本語においては、同じですます口調でも、日本古来の漢語の、そして横文字の和製英語の出現頻度によって説得力に差がある。同様に、「英語は借用された時代が古いほど格式高く説得力が出る、そのため頻出する」ことを調査する。

2. 方法

教育用に公開されている著作権の切れた文章をテキストマイニングによって古語、新語の量を計測し、話の山場と対応しているか調査する。

3. 結果

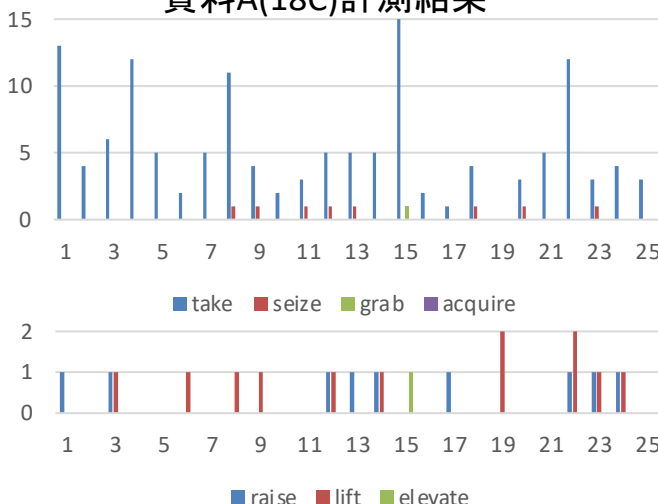
借用された時代の違う同義語として、「take, seize, grab, acquire」と「raise, lift, elevate」を使った。以下に語源から推測した、借用された時代を示す。

| | |
|---------|------------------|
| take | 北欧語 10~11C |
| seize | フランス語 13C以降 |
| grab | 中世オランダ、ドイツ 16Cごろ |
| acquire | フランス語 12~15C |
| raise | 北欧語 10~11C |
| lift | 北欧語 10~11C |
| elevate | ラテン語 15C |

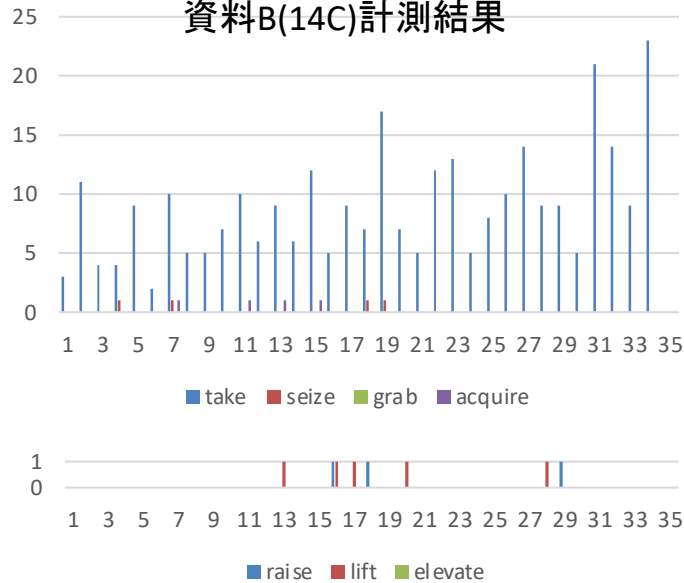
表1. 語と借用された時代

パブリックドメインの文学作品を5万文字ごとに分割してそれぞれの語の数を計測した。

資料A(18C)計測結果



資料B(14C)計測結果



4. 考察

物語の山場を、話全体の終盤と定義すれば、古来の言葉、すなわち「take」、「rise」、「lift」が他の語に比べて突出して多くなっている部分があるはずである。

実際、このような箇所はいくつかある。

資料Aでは終盤にraiseとliftが高い密度で、特にliftは同じ区間内に2度も使われている箇所がある。また、資料Bではtakeが用いられる回数が終盤に明らかに多い。

しかしながら、これらは仮説を支持するのにはやや弱い。

資料Aではtakeの量が前半に偏っているし、資料Bではraise, liftは中盤に偏っている。特に「take」は非常に基本的な英語動詞であるため全体に頻出し、またその頻度に偏りがあるのも当然である。

よって、先に挙げた特徴は単にデータの乱雑性によるもので、内容との相関は全くないものと思われる。

5. おわりに

今回の実験では、英文を5万文字ごとに区切り、借用された時代に差がある同義語の出現頻度を計測した。その結果、「英語は借用された時代が古いほど格式高く説得力が出る、そのため頻出する」という仮説は否定された。

文献:

Toshio Nakao, Michiko Terajima An Illustrated History of English, p74-75,133- Oxford English Dictionary